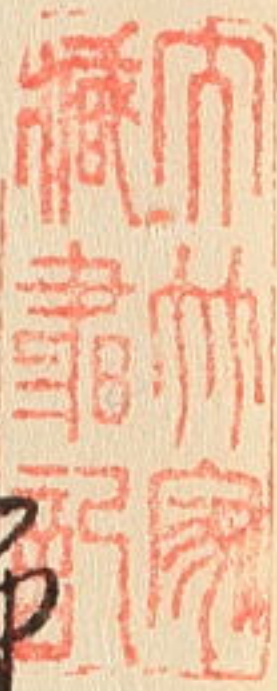




算心集





淨

百韻式

一 癸句天

賜地

第三人

次 五句

五行五常也

面 八句

衆生八苦

十四句

不動十四根本

二之表裏廿八端

三之表裏千手廿八部

四之拈

十六句十六菩薩

六句當六根

右四拈分配四天王也又比春夏秋冬



古くより人々を導く神として奉り奉るものと云ふるは古くより神を祀りて  
しるべし

一 硯 墨 紙 水 四方神

一 筆 中央大日

一 筆 一のりるは表十の各神の表らるるに各神の表らるる  
神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる  
依 二陰数を母ハキ陰数を婦人始て経外陽数を  
二七十四也男を始て陰陽の別陰数を二八十六也  
是らりと用考陰の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる  
一 西の向のる神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる

せうと云ふれども一律ハ向のる神の表らるるに各神の表らるる

月花の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる

一 廿五日花の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる  
西の向のる神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる  
一 中その陰陽の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる  
重の月九の月花の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる  
此定法也功也の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる  
ちう月花の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる  
花の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる  
を祀りて奉る神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるるに各神の表らるる

ちぎ付多きものの表表もこころいふなすこゝろ

一いつしあるち四花八月に是後を隔る有るもの表  
をねごとあぢして花四の隔る合能とすねえ名表の表  
の月花と立て合せてむつりねえはあも法が勅許と  
多し四花七月よ定らねえ

一此の表表の序重序二の折破名表の折る  
一頁表より二の折るは名表の折るは  
なく位よりして是は左一面十句折るは二折の外  
折仙四四あるは序破とねえ一は  
一歌仙三十六のち名表三十六歌仙は比

一四十四を百ある二の折をぬきたるものと世表といふ  
ちよとちよ後人かねを

一七十二候を四あるの七十二候より割るものと百頁の二  
の折を括く

一源氏も表より表十二句二表十二句二表十二句名表  
十二句因表より合せて二十句は比

一そ尾十六句は百頁の表と大表と合せて  
一十二句歌仙のそ尾

一長歌より面はる表十六句名表面十六句月表八句合  
四十八句也

一短歌多面四句裏八句名孫表八句裏四句

右も歌短歌ハ詩よる也る名を在化防制儀也すれと也  
歌ハ重長延る短歌ハ面せしむ月花の配り孫よる別ハ  
用と云ふし古制をあらん

一面六句亦八句は毎時百多歌化をとりて心  
て神歌意をた名新出とて由る也此種ハ冬終る歌化  
の追加而もた名新出とて由る也此種ハ冬終る歌化  
は冬終る歌化の追加を神子等の一時後終るといふ一の  
規矩と云ふ思ふべし

一世より千句を定法とてさる人此形とて是の百句に  
はさす下等とて一依て句のものと異なる様子が  
式と用ゆるさるは凡そ一等の時定まりし

千句世段句配才三名之り

|    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  |
| 師  | 師  | 師  | 師  | 師  | 師  | 師  | 師  |
| 二  | 二  | 二  | 二  | 二  | 二  | 二  | 二  |
| 唱  | 唱  | 唱  | 唱  | 唱  | 唱  | 唱  | 唱  |
| 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  |
| 上  | 上  | 上  | 上  | 上  | 上  | 上  | 上  |
| 老  | 老  | 老  | 老  | 老  | 老  | 老  | 老  |
| 人  | 人  | 人  | 人  | 人  | 人  | 人  | 人  |
| 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 四  | 四  | 四  | 四  | 四  | 四  | 四  | 四  |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 五  | 五  | 五  | 五  | 五  | 五  | 五  | 五  |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 六  | 六  | 六  | 六  | 六  | 六  | 六  | 六  |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 七  | 七  | 七  | 七  | 七  | 七  | 七  | 七  |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 八  | 八  | 八  | 八  | 八  | 八  | 八  | 八  |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 九  | 九  | 九  | 九  | 九  | 九  | 九  | 九  |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 十  | 十  | 十  | 十  | 十  | 十  | 十  | 十  |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 十一 | 十一 | 十一 | 十一 | 十一 | 十一 | 十一 | 十一 |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 十二 | 十二 | 十二 | 十二 | 十二 | 十二 | 十二 | 十二 |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 十三 | 十三 | 十三 | 十三 | 十三 | 十三 | 十三 | 十三 |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 十四 | 十四 | 十四 | 十四 | 十四 | 十四 | 十四 | 十四 |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 十五 | 十五 | 十五 | 十五 | 十五 | 十五 | 十五 | 十五 |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 十六 | 十六 | 十六 | 十六 | 十六 | 十六 | 十六 | 十六 |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 十七 | 十七 | 十七 | 十七 | 十七 | 十七 | 十七 | 十七 |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 十八 | 十八 | 十八 | 十八 | 十八 | 十八 | 十八 | 十八 |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 十九 | 十九 | 十九 | 十九 | 十九 | 十九 | 十九 | 十九 |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 二十 | 二十 | 二十 | 二十 | 二十 | 二十 | 二十 | 二十 |
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |

|     |       |   |      |
|-----|-------|---|------|
| 同 七 | 同 二の人 | 同 | 名代侍等 |
| 同 八 | 同 五の人 | 同 | 同名代  |
| 同 九 | 同 四の人 | 同 | 三の人  |
| 同 十 | 同 一の人 | 同 | 二の人  |

右の二を作者の名也

千句癸十句に賦物方賦物 春三巻 夏二巻 秋三巻を  
 二巻也三日は満庵止し初日三巻を二日四巻を三日目三巻を  
 是と申す千句の格也

一千句書句集の次千句を以て疑の句集を林等下急る  
 方かまの流定る事とし

千一の巻 梅の巻以上  
 千二の巻 右の巻以上  
 又柳の

千三の巻 花又梅の巻以上

千四の巻 竹の巻 千五の巻 柳の巻 以上

千六の巻 葉の巻 千七の巻 月

千八の巻 葉の巻 以上

千九の巻 子巻の巻 千十の巻 雪の巻 以上

又花の巻の巻此の巻外書付多ると一或も其の巻外と  
 一銀の巻三心浮あうは受連流の九人十二人なり此の巻外十  
 員と云何り是れ合或法千句の員なりて百員と云の巻  
 合也千句の二巻一巻の巻は千句の一巻也

午句出を記す所の辨

辨 語 一 種 ありて又一きねの事

且つ連累の辨階もけんをもてあつて以てのりもあらく  
と案を立し

執事日習ひ

一 執事の法を宗匠に伺ふ又其意を指圖の所を並  
へし宗匠の言に伺ふ又其意の意を指圖の所を伺ふ  
及指しきうを宗匠の懐紙の四枚を二枚つて字を以て二つに  
分ちしれも極新の二つ折りて又以て二つに折るを  
甚くしきよ右の紙を並てたり又書は上よのせて二

ものゝ執事又其意をいふを指圖を以て二つに折るも  
又其意のうへにおき指の甚くは我後には有りとも  
又者正不存何のうへにおきも一書して懐紙一  
ねら下よあき一書し右の二枚をのりて書して又  
其意のうへにおき一書し右の二枚をのりて書して又  
そのねら目子賦の字を書して二つ折の内へ表ハ句十  
六紙あきう書を指圖の紙を何れとて書は其  
牛の書は紙とく書して二つ折の裏ハ十四句二十八紙なり

年月日

賦何俳諧

〇〇

〆名にめ此句のとまりみあへし  
そし俳のよききをよきよ  
あききとらうあひ  
あつてやよふと経冊よ  
くてよき書手いよよあきい  
下るる

一羽とまはあつて作らるるよあぬ句を二遍うらそはあ  
のさよよむねより下き一羽と名をよむ也独歩の  
句は句斗うて独歩といよむらうら一巡とらう句と  
いぬあゆむことく二遍よりそを後へしそは後社あふ  
とあゆみ通紙をとらひ書しそを後へし懐歩と又書の上  
ふま字の軸うて二枚書らる下々の一枚の傍を揮て  
かへりかへてき後よ所よりあにそは後又視のふ  
くをあらうよむそあし連筆書き何と何をみる時よ  
くくつて一枚のゆきとあぬ懐歩あふ視の書よのそとそ  
あはれくは視のあふるの又書かた都よよふくとし懐歩は



是又後口の多麻標よりきて邪りあるやうな是し  
又妻の下小入るはち略物也志は入毎ころん  
枕第一吸を吹くやう上の句は下の五文字下北の下の七  
文字を吹中よ上とよむし

ちそ知や糸の七十接列位  
いとく疑は江をあるはら

次才下けの後の秋心ゆきと嫌ふと但悼の追善のよき  
と然吹ふよしと流の何はともすしし連句を分ん  
としては枕第一句をおお句とんは枕第一句を吹  
てしては流も席よりよとて連句はあ句とふは外

と物もは山家函の句此のは人といふしを何し知枕  
第一句を吹てし連句より枕第一句を流するや  
上の句より五文字を吹枕第一句を吹てあるは五文字  
を吹す連句中七文字下の五文字を合せて流す枕  
第一句の五文字を合せて流すて吹ては流すすを女  
しきる女

連句の句  
枕第一句  
句  
枕第一句  
枕第一句  
枕第一句  
枕第一句

かくのこごとく一白のりて吹上りし下の白を白の上七又を  
吹上りし執事上七又を吹上りし白の下七又を吹上りし執事  
ハ上七又を吹上りし白のりて吹上りて吹上りし如た

白を 吹上りて吹上りて

執事 吹上りて吹上りて

白を 吹上りて吹上りて

執事 吹上りて吹上りて

白のりて吹上りし白のりて吹上りし白のりて吹上りし  
吹上りし執事上七又を吹上りし白の下七又を吹上りし執事  
ハ上七又を吹上りし白のりて吹上りて吹上りし如た

まことのこごとく一白のりて吹上りし下の白を白の上七又を  
吹上りし執事上七又を吹上りし白の下七又を吹上りし執事  
ハ上七又を吹上りし白のりて吹上りて吹上りし如た

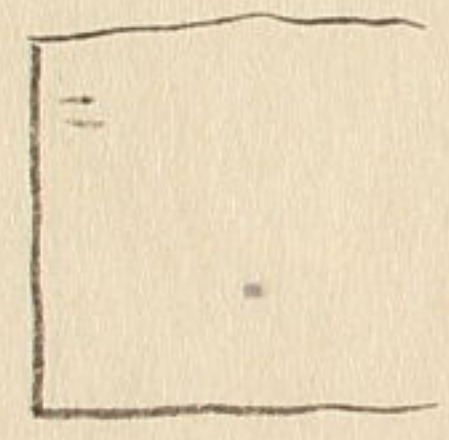
執事ハ吹上りし白のりて吹上りて吹上りし

吹上りし執事上七又を吹上りし白の下七又を吹上りし執事  
ハ上七又を吹上りし白のりて吹上りて吹上りし如た

のりて吹上りし白のりて吹上りて

懐妊の二枚三枚目より懐妊の二枚三枚目より懐妊の二枚三枚目より

を月をぬやうに吹上りし



初折と書は吹上りし白のりて吹上りて吹上りし  
一し和の懐妊の二枚三枚目より懐妊の二枚三枚目より懐妊の二枚三枚目より

とておとといふ一連歌の冷泉の祖為れは建治の  
式を始とて承久の冷泉家も随て連歌の懐もと三折  
りてなり

建治の式武應の式武

賦の數也一句のへまの合点也

一羽傳て宗通安をとりて建元禪直なり安を  
執事ハ安をせん 懐安字候は行

夢夢聞之る

一多又おのむ句の付ハ平生し通を句ハ對て詔  
へし心多おのむと故人句ハもさう歌ハ代句たし

又經句の多おのむはしめハそのハ對て又さ  
句ハ句ハ其句ハ小程を起しては受

但多おのむを承の付ハ句ハ當多もたして又多  
の承ハ付ハ其承ハ隨ふして又多承の承見傳り  
ても廿四日此と定むしは受

端冊書傳多承の傳傳多承廿四夕とて心持  
あり

表

夢夢

波吉屋も月廿入り  
傳句……

真下

服婦子 第三二男 四句目 定中守 五句目 妻 六句目 代

右の如仙乃表也百身とて習ふ一し物代とて新秋の  
物代也此は宗道の句より連穴作し此中習とて  
或は物とて外に年りまじくを林とてるるは祝多の俳句  
より也

一糸竹可也 真の席 墨江天満子 行東常

一葉は花たる一し之花梅と花は花なり何と外の花なり  
梅の由花を何にありし之花は花なり花は花なり  
草花を花なり

追悼追善席の事

一追悼を以て死者より一人を悼ふ事こより此中

秋心の沈こて花なり一し子句をとる事とて此中  
一御香りの如くそ亡人成佛淨土の句を一出とてかし  
一花を以て死者一し句を以て死者一し此の如く  
此は亡人の旧友たるはる一し花を以て死者一し此の如く  
一死者一し此中守詞道よりある花の如く此外迷ふ  
くは死者の沈こて死者の句を以て死者一し此の如く

婚姻の賀席

此の如く花を連たるとして世に如字とて此中  
大なる辞の如く祝連たるとして此中  
帰るまじく此の如く此の如く

又たふらふ白昼を林を以て除けを志す

饒別賀席

一 飯白連を志す一 飯白一 中核を志す  
一 志す一 飯白一 中核を志す  
或は凡俗所りし客此白書志し除けを志す

新室賀席

一 飯白連を志す一 飯白一 中核を志す  
一 志す一 飯白一 中核を志す  
上は此書を志し中核を志す外破る位くも月<sup>林</sup>  
新室賀席

一 飯白連を志す一 飯白一 中核を志す

勿後志すを志す

元後賀席

一 飯白連を志す一 飯白一 中核を志す  
林白一

一 飯白連を志す

一 飯白連を志す一 飯白一 中核を志す  
出家社を志す一 飯白一 中核を志す  
言を志す一 飯白一 中核を志す  
て林白一 昔世世を志す一 飯白一 中核を志す  
生涯此年と言白を志す一 飯白一 中核を志す

席上より出づるをいふは、いづれに譲らぬの  
主也といふは、いづれに譲らぬの  
笑をいふは、いづれに譲らぬの  
三少

